

清流瀬田川畔

石山寺探訪

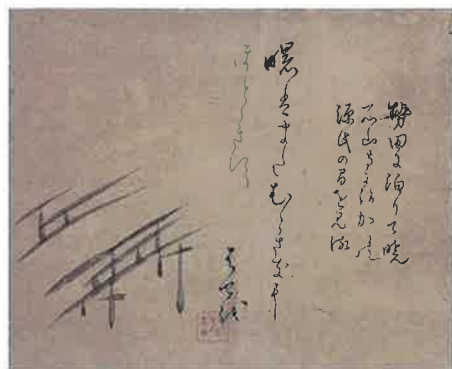
紫式部ゆかりの花の寺



芭蕉

近江八景「石山の秋月」のシンボルとなっている月見亭は、瀬田川の清流を見下ろす高台に設けられ、後白河天皇以下歴代天皇の玉座とされました。この月見亭の隣に芭蕉庵があります。俳聖松尾芭蕉は、たびたびここに仮住まいをして、多くの句を残しています。

石山の「石にたばしる あられかな
あけぼのは まだむらさきに ほととぎす
瀬田川周辺には、芭蕉ゆかりの地として墓地のある義仲寺の無名庵、長期滞在した幻住庵、岩間寺などが点在します。



島崎藤村

自然主義文学者の島崎藤村は、石山寺の茶丈である密蔵院で約二カ月間生活し、このときのことを『文学界』第七号に「茶丈記」として寄稿しています。

また、境内には「石山寺にハムレットを納むるの辞」の一節が、文学碑として設けられています。



密蔵院



淀殿

石山詣

平安時代には、宮廷の女人たちのあいだで、観音堂に参籠し、読経しながら一夜を過ごすことが流行りました。紫式部はここに参籠して『源氏物語』の想を練り、また、清少納言、和泉式部、『蜻蛉日記』の藤原道綱の母、『更級日記』の菅原孝標の女なども石山寺のことを日記や随筆に記しています。石山寺は、芸術家や文人たちに深い感応を引き起こし、女流文学の開花の舞台となりました。その後も、松尾芭蕉や島崎藤村をはじめ、石山寺を慕う文人たちを多く集めています。



月見亭



月見亭から瀬田川をのぞむ

島崎藤村
「石山寺にハムレットを納むるの辞」より
湖にうかぶ持神よ
心あらば
落ちゆく鐘のこぼれ小
聴けや
千冬の冬よ夜よとに
石山の
寺よりいづく流経の
こころ

囲ませた訓点が挿入されています。

多宝塔



運慶・湛慶作の仁王像



秋月祭

源平の乱にあたって源頼朝の命を受けて戦った中原親能は、石山寺の毘沙門天に戦勝を祈願し、事の成就に感謝して勝南院を建立しました。このとき源頼朝は、乳母であり親能の妻でもあった亀谷禪尼の請いによって、多宝塔（国宝）、東大門（重文）、鐘楼（重文）などを寄進しました。



多宝塔（国宝）



東大門（重文）



本堂（国宝）



硅灰石（天然記念物）

本堂 外陣正面



奈良時代中頃から仏堂の前に礼拝のためのお堂が建てられるようになり、『石山寺縁起絵巻』の円融上皇の参詣の図に、すでに礼堂らいどうが描かれています。現存する舞台造りの礼堂は、近江浅井氏の娘であった淀殿が、慶長年間に再建したものです。また、淀殿は東大門の大修理も行っています。

はかたて
紫式部がその窓から十五夜の月を眺めたときに、靈感をうけ『源氏物語』の構想を得たと伝えられます。
「石少弁藤原為時の娘、上東門院の女房であった紫式部は一条天皇の叔母の選子内親王のためにと、女院から物語の創作を下命され成就を祈願するため当寺に七日間参籠した。心澄みわたり、にわか物語の構想がまとまり、書き始めた」
『石山寺縁起絵巻』には、このように記されています。



石山寺に歴史と文人をたずねて。

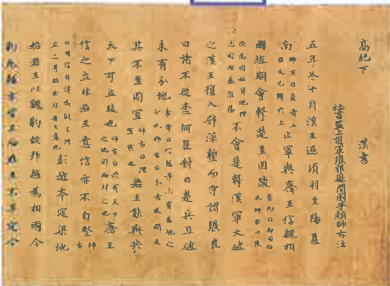
さざなみが煌めく琵琶の湖水が、やがて穏やかな流れとなる瀬田川、石山寺はその西岸の伽藍山の麓の景勝地にあります。その創立は、東大寺大仏造立のための黄金の不足を愁えた聖武天皇が、ここに伽藍を建てて如意輪法を修すようにとの夢告を受け、良弁僧正を開基として開かれた寺院です。また、本尊の秘仏如意輪観音像は、縁結び、安産、福德などに靈験あらたかな仏さまとして信仰を集めています。

石山寺は奈良時代から観音の霊地とされ、平安時代になって観音信仰が盛んになると、朝廷や摂関貴族と結びついて高い地位を占めるとともに、多くの庶民の崇敬をも集めました。その後、源頼朝、足利尊氏、淀殿などの後援を受けるとともに、西国三十三所観音霊場として著名となり、今日まで参詣者が絶えません。



漢書(国宝)

石山寺には、中国唐代初期の学者である顔師古の注釈による漢書の古写本があります。「高帝紀」第一下は奈良時代に書写され、全巻に注が朱書されている他、



石山寺縁起絵巻

絵巻

『石山寺縁起絵巻』(重文)は、良弁僧正の石山寺創建から始まる寺の縁起や、本尊のあらたかな靈験の数々を記した全七巻の紙本着色絵巻物です。また、土佐光起筆と伝えられる『源氏物語絵巻 末摘花』(重文)などを所蔵しています。

紫式部

境内の本堂(国宝)は、巨大な礎石(天然記念物)の上に建てられています。この本堂内にある「原氏の間」

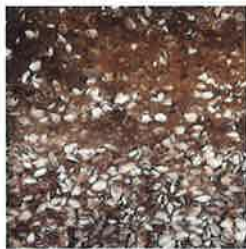


源氏の間
の紫式部

貝塚・土器と銅鐸



袈裟褌文銅鐸 (重文)



石山貝塚はセタシジミやタニシなどを中心とする貝塚で、淡水産としてはわが国最大規模のもので、ここでは縄文早期の土器や石器類、人骨なども発掘され、考古学研究的貴重な資料となっています。また、七四九年に石山寺が建立された際、地中より五尺の銅鐸が出土し、このことが『石山寺縁起絵巻』にも描かれています。

石山寺周辺マップ

紫式部ゆかりの石山寺は、琵琶湖に近い瀬田川沿いにあり、ここから少し南へと下ると、アクア琵琶、南郷水産センター、立木観音、岩間寺などがあります。

さらに下ると、溪流の美しい宇治川へとつぎ、お茶のまち・宇治へと至ります。

また、国道422号から国道307号へと進むと、陶芸の里・信楽へと至ります。

石山寺への交通

電車

JR東海道本線石山駅下車。京阪電車の石山坂本線に乗り換え、京阪石山寺駅下車後、徒歩10分。

バス

JR東海道本線石山駅下車。京阪バス石山団地行き、大石行き、新浜方面行きに乗り約10分。石山寺山門前バス停下車後すぐ。



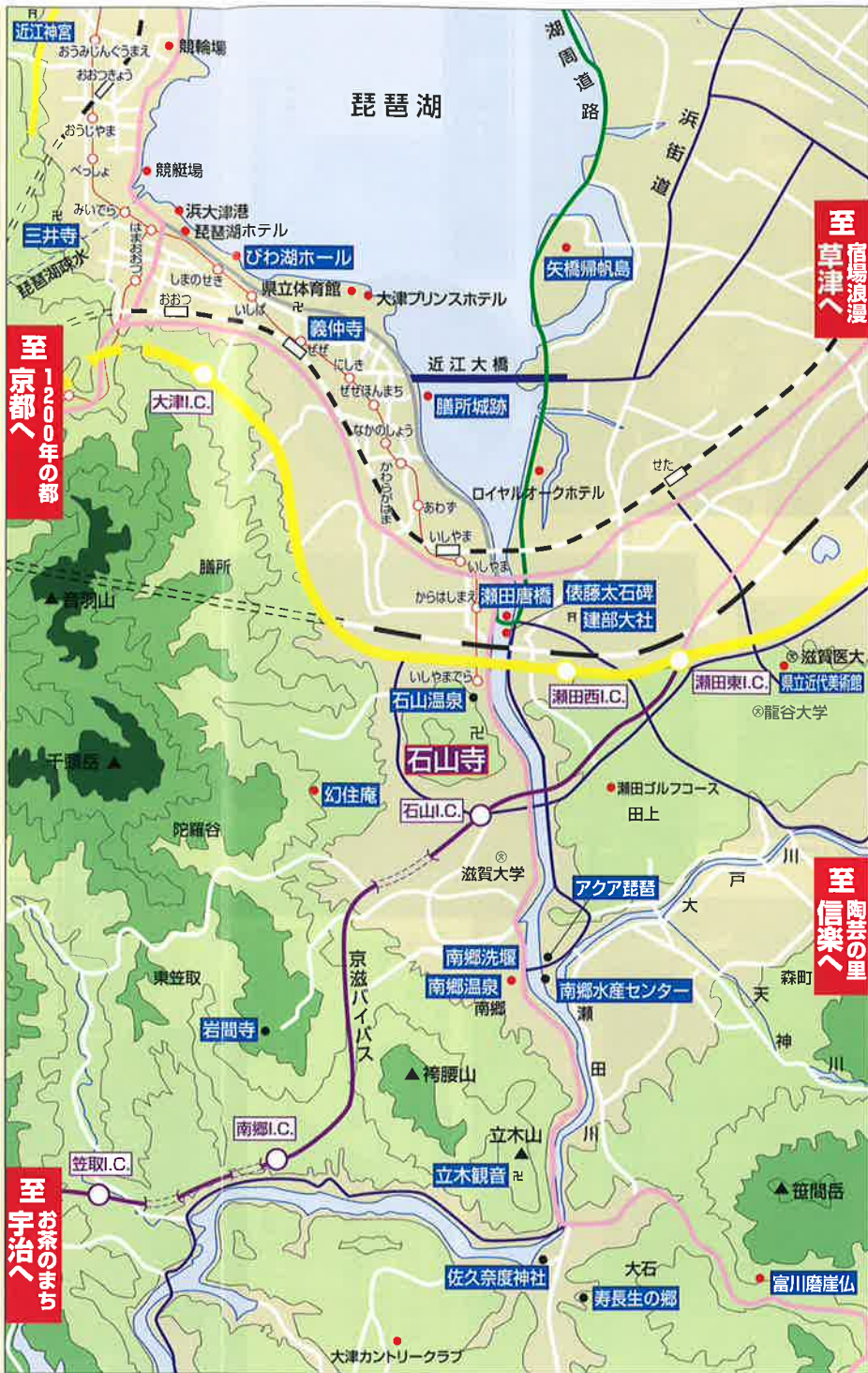
車

京都方面からは名神高速道路瀬田西I.C.より、名古屋方面からは名神高速道路瀬田東I.C.より、宇治方面からは京滋バイパス石山I.C.より。

インターチェンジ案内図



- ①草津方面バイパス入口
- ②名神瀬田東インター入口
- ③名神瀬田東インター出口
- ④名神瀬田西インター入口
- ⑤名神瀬田西インター出口
- ⑥石山寺方面出口



至 京都へ
1200年の都

至 草津へ
宿場浪漫

至 信楽へ
陶芸の里

至 宇治へ
お茶のまち

石山寺境内図



◆石山観光協会加盟店

- 石山温泉 ぼだい樹 (料理旅館) TEL (077) 537-1187
- 日本料理 新月 TEL (077) 537-1436
- 茶丈 藤村 (和菓子と甘味喫茶) TEL (077) 533-3900
- 自然農園 川のおい (茶等販売) TEL (077) 533-0080
- 石山寺郵便局 TEL (077) 534-4300
- 香月 (仕出し・寿司) TEL (077) 537-1103
- 志じみ釜めし 湖舟 TEL (077) 537-0127
- 至誠庵 (鮎ずし・湖魚つくだ煮) TEL (077) 534-9191
- 淡味の膳処 洗心寮 (お食事とお土産処) TEL (077) 537-0066
- 石柳 (志じみめし) TEL (077) 537-0002

- 蕎麦屋 すみ蔵 TEL (077) 537-2045
- レストラン アメリ TEL (077) 534-7427
- レークウエスト観光 (一番丸運航) TEL (077) 572-2114

寺前浪漫

- 叶匠齋庵 石山寺店 (和菓子) TEL (077) 534-6331
- 仁々木 (花梨糖饅頭) TEL (077) 514-2555
- 御幸茶舗 (朝宮茶) TEL 070-1749-8976
- ほたるの里 石山寺前浪漫店 (近江の名産) TEL (077) 537-1878
- 八風洞 (骨董・アンティーク)

石山寺観光駐車場 乗用車(120台) バス(20台)
TEL (077)534-1600

毎月18日 牛玉さんの門前市開催

石山寺の花ごよみ

2月

梅林「^{じょい その}薫の苑」は、国宝「^{しんじょうぎょう}薫の聖教」を著述した淳祐内供（菅原道真公の孫）ゆかりの地で、藤牡丹・白滝などの梅が気高く咲きほこります。



4月

境内のみどりや諸堂を背景に、桜が美しく、歴史のうつろいを感じながら味わい深い花見が堪能できます。



4月下旬～5月上旬

参道の両側に植えられた人の背丈よりも高いキリシマツツジは、樹齢約200年の全国でも珍しい老木で、4月下旬から赤く咲き乱れます。また、本堂下の通路沿いには、白く優雅な姫シャガの大群落が一带を埋めつくします。



5月

琵琶湖をかたどった池や滝からなる回遊式庭園「無憂園」では、アヤマやショウブが花を咲かせます。春は桜や山ツツジが楽しめます。

11月

境内は天然記念物の硅灰岩や諸堂に紅葉の彩りが映え、錦秋の趣をそえます。



大本山 石山寺

〒520-0861 大津市石山寺1丁目1-1

TEL (077) 537-0013 FAX (077) 533-0133

ホームページ <http://www.ishiyamadera.or.jp>